

大ト協「ふれあいトラックフェスタ」

【大阪】大ト協は19日、万博記念公園・お祭り広場でトラックの日行事「ふれあいトラックフェスタ2014」を開催。トラック関係者をはじめ、子ども連れの家族ら約3万5000人が来場し、



白バイ試乗の様子

約3万5000人が来場 過去最多の入場者数

過去最多の入場者数となった。

開会のあいさつで坂本克己会長は「皆さんのエネルギーとパワーに心から感謝するとともに、本日の催しが社会の皆さんに『トラックがないと生活できない』と『思っていただけるきっかけとなるようお願いしたい』と来場者に業界をPRした。引き続き、滝口敬介大阪運輸支局長が「トラックは暮らしと経済を支えるライフライン。交通事故を減らし、トラックドライバーを

増やす取り組みにご協力いただきたい」とし、井上哲也吹田市長も「トラック輸送の大切さ、交通安全意識の向上を目的とし、売り上げの一部を交通遺児へ寄付するという素晴らしい催しを吹田市で開催していただき、感謝している」とあいさつした。



ブースの風景



OCHISがブース設置

ヘルスケアネットワーク(OCHIS)は「健康イベントコーナー」を設置し、睡眠時無呼吸症候群(SAS)などについての解説、血

圧測定、血液サラサラ度測定、健康グッズの販売などを行った。

ブースでは、SASスクリーニング検査機器に使用されるパルちゃん(パルスオキシメータ)と、治療機器として使用されるCPAP(シーパップ)を実際に設置し、参加者に「居眠り運転による自動車事故や労働災害など、個人や社会に大きな影響を及ぼす前に早期の治療を」と呼びかけた。

大阪で唯一のGMークラッピングを施した車両の走行に協力した事業者として、シンワ・アクティブ(吉本英雄社長、摂津市)が全ト協から表彰され、坂本会長から表彰状を手渡された。

会場では各支部によるフリーマーケットや、子どもにも人気の「妖怪ウォッチ」のキャラクターによるショー、白バイ・トラック試乗体験など、さまざまなブースが設けられた。

なお、当イベントはチャリティーで行われ、売上金の一部が交通遺児などへ寄付される。

また近年、女性に増加している乳がんに関して、自宅で簡単に自己検診が出来るグループ「ブレストケアクラブ」を販売し、早期発見を呼びかけた。
(木村麻理奈)